包括的な学校改善の視点：教育課程・学習指導

# 小学校高学年における教科担任制を推進する学校モデル

| 中核校 | 函館市立本通中学校 | 指定校 | 函館市立本通小学校、函館市立南本通小学校<br>函館市立鍛神小学校、函館市立東山小学校 |
|---|---|---|---|

## ■　構築した学校モデルの具体

### ○　学習内容の確実な定着に向けた１人１台端末の活用

・次時で取り扱う学習内容をクラスルームに掲載し、児童に見通しをもたせ、授業を行う。

・実技を行う場合は、本時で目指す姿を事前に動画でクラスルームに掲載し、児童に、イメージをもって学習に取り組ませ、学習内容の確実な定着に結び付ける。

【クラスルームへの掲載内容】

### ○　協働的な学びを充実させるための課題設定の工夫

・思考力・判断力・表現力等を効果的に育成するため、習得した基礎的･基本的な知識及び技能を活用することで解決できる課題を設定する。

・話合い活動などの協働しながら解決する場や、その結果を動作や言葉、ＩＣＴを用いて表現する場を設定する。

【協働的な学びの様子】

### ○　中学校の保健体育科とのつながりを明確にした授業改善

・中学校での学習への見通しをもたせるために、今、学習している内容が、中学校でどのように発展するのかを説明する。

・学習意欲を高めるために、ボール運動では中学校で使用するボールを提示したり、器械運動では、より高度な技を示したりする。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査等で明らかになった課題の克服に向けた取組を、中学校で継続して行うことができるよう、中学校の教育課程に、重点とする取組を引き継ぐ。

## ■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・専科教員と学級担任が打合せをすることができるよう、時間割を工夫し、授業内容や児童の様子を共有し、連携して指導に当たることができるようにした。

・専科教員の専門性を生かした実践について、高学年の学級担任だけでなく、全教員全体へ還元するため、職員会議や研修会で交流する時間を設定した。

〔専科教員の取組〕

・クラスルームを活用し、授業で使用したワークシートや動画などの教材を端末上で全教員と共有し、いつでも参照できるように環境を整えた。

・小学校での課題の解消に向け、中学校の保健体育科の担当教諭と連携し、小学校での取組を中学校でも継続して行うことができるようにした。

## ■　各指定校への学校モデルの普及方策

・年４回の地域協議会において、中核校の取組事例を共有し、その成果や課題について明らかにし、次の地域協議会までに、課題の解決に向けた取組を推進するなど、検証改善サイクルを確立させた。

・長期休業中に、中核校と指定校での合同の研修会を開催し、それまでの取組内容を全体で共有した。

・中核校で効果のあった事例について、各指定校で活用できるよう、データベース化した。